



健康と開発の調和を支援する

HANDS

(Health and Development Service)

2000 年事業報告書

2000 年 12 月

目次

HANDS の問題意識	2
HANDS の設立	3
国際的なパートナーシップ	3
組織	4
活動	5
専門的人材養成	
• 人口リプロダクティブヘルス・テクニカルセミナー	5
• テクニカルワークショップ	6
• 第1回性感染症・エイズ・結核臨床検査技師研修	7
• 岩村国際保健フェローシッププログラム	7
国際保健協力方法論の開発	
• トヨタ財団「利用者の視点による母子健康手帳評価プロジェクト」	8
国際保健協力方法論の実施	
• ブラジルアマゾン地域コミュニティー環境・保健サービス向上プロジェクト	8
• USAID Rational Pharmaceutical Management Plus (RPM Plus) プロジェクト	9
• JICA「ホンジュラス国第七保健地域リプロダクティブヘルスプロジェクト」短期専門家の派遣	9

HANDS の問題意識

世界は一部の富める人々と多くの貧しい人々に大きく分断されたまま 21 世紀を迎えました。先進国と途上国の間だけでなく、それぞれの国内において経済的・社会的格差が拡大しています。世界全体では、16 億人以上の人が 1 日 1 ドル以下という貧困生活を余儀なくさ

れており、そのような地域では、今なお 1 分間に 1 人以上の女性が妊娠や出産により死亡しています。また、1 分間に 11 人の割合で新たな HIV 感染が起



こり、その 95% は途上国で生活していると推定されています。そして新たな HIV 感染者の半数が 15 歳から 24 歳の若者であり、個人や地域社会に多大な影響を及ぼしています。これらが、今私達の住む世界の現実です。グローバル化が進む中、平和で豊かな地球市民社会を築くには、人々の間に存在する富と健康の格差を是正することが必要不可欠です。

一方、ODA(政府開発援助)額で世界第 1 位という援助国のリーダー的立場にある日本による途上国支援は、近年その質的向上を目指し技術援助や政策支援といったソフトウェア面での協力に重点が移ってきています。しかし、日本の国際保健医療協力は従来政府主導の実

施体制に頼りすぎたきらいがあり、途上国のニーズに合った保健医療協力を形成実施できる高いレベルの経験と技術を有する組織や専門的人材が日本の民間団体の中

に極めて少ないといえます。

保健医療協力に自分の人生をかけたいという志を持った若い人々の輪が広がる中で、このような新しい潜在力が十分に活用されていないことも事実です。このような新しい人材がその能力を継続的に生かしていけるシステムやキャリア・パスも国内には十分に存在しません。市民の手による責任ある国際協力の実施体制を充実させるために、より多様な活動のための基盤を開拓し整備する必要があります。

HANDS の設立

健康と開発の調和を支援する団体 - Health and Development Service (HANDS) は、このような問題意識にもとづいて、国際的ヒューマニティの立場に立って保健医療分野の包括的な技術協力を通じ、平和で豊かな地球市民社会の実現に貢献することをめざす非営利民間団体として2000年1月より活動を始めました。HANDSは幅広い分野の専門的知識を有し、質の高い技術協力を提供する民間の専門家集団です。私達は明確な戦略と高いマネジメント能力を有し、明瞭なアカウンタビリティを果たすことのできる新しいタイプのNPOを目指しています。2000年11月には特定非営利活動(NPO)法人格申請を東京都へ行い、2001年春のNPO法人格取得を予定しています。

国際的なパートナーシップ

HANDSは、官民両セクターにわたる国際的なパートナーシップの構築を目指します。国籍を問わず有能なメンバーを求めるとともに、国際協力に関わる内外の団体との連携を重視します。特に、設立当初の段階においては、アメリカ合衆国の強力なパートナーとして保健医療分野のマネジメント能力育成のパイオニアであるManagement Sciences for Health (MSH)と緊密な連携・協力を行っていきます。



MSHは、開発途上国の政府、自治体、NGO等の家族計画・保健・医療サービスに関わる人づくり・システムづくりを支援してきた30年近い歴史と実績を有する国際保健開発NPOです。MSHの誕生のきっかけは、創設者 Ronald O'Connor 氏とアジアのノーベル賞といわれるマグサイサイ賞を受賞した日本の国際協力のパイオニア的存在である岩村昇医師とのネパールにおける出会いにさかのぼります。創設以来MSHは、日本との交流を積み重ねてきました。HANDSは、このような歴史に培われたパートナーシップの上に、さらに日本のNGO/NPOとも協力を深め、互いに学びながらより良い国際協力を実施していこうと考えています。

組織

代表 中村安秀 (大阪大学大学院人間科学研究科 教授)

理事会

中村安秀 (大阪大学大学院人間科学研究科 教授)

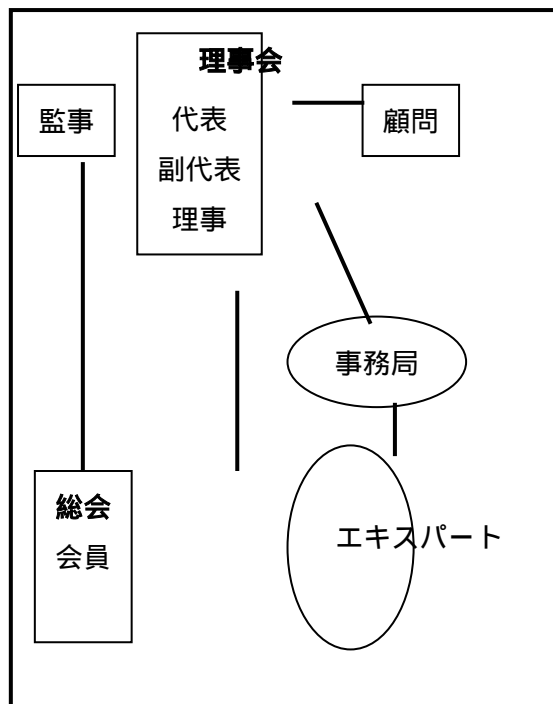
藤崎智子 (MSH 日本代表)

Fish 厚子 (MSH, HANDS Development Group, Chairperson)

柳下真知子 (Population Reference Bureau 東京代表)

監事

北村 大 (北村法律事務所)



活動

専門的人材養成

◆ 人口リプロダクティブヘルス・テクニカルセミナー

このセミナーは、最前線の現場で活躍する人々を講師として内外から招き人口・リプロダクティブヘルス分野における今日的な課題を様々な角度から活発に考察・議論できる場として HANDS と MSH が共同で開催しています。初年度は 7 回の定期セッションとともに、12 月の沖縄感染症国際会議に際して JICA、USAID の協力を得た特別セッションを開催しました。日米の NGO や政府の経験からお互いに学びあう中から、より実効性・持続性の高い人口・リプロダクティブヘルス分野における援助事業を形成、実施、評価する手がかりを自由な雰囲気の中で検討する場として、国際保健開発活動に従事する多方面の方々やメディアなどの活発な参加と高い評価を得ています。

	タイトル	参加者数
第 1 回 2000 年 1 月	なぜ今、人口リプロダクティブヘルスが重要なのか？ - 開発途上国の女性の健康と権利の視点に立つ日米 NGO の取組み	100 名
第 2 回 2000 年 3 月	テュニジアのリプロダクティブヘルスへの取組み - 思春期保健にむけての GO/NGO のパートナーシップ	60 名
第 3 回 2000 年 4 月	情報を活用した保健サービスマネージメント - 南アフリカの GIS (地理情報システム)	60 名
第 4 回 2000 年 5 月	ネパールにおける USAID 感染症対策支援と医薬品管理プロジェクト - Availability and Rational Use of Drugs	40 名
第 5 回 2000 年 7 月	リプロダクティブヘルスサービスの質の改善について - Improving the Quality of RH Service in Northern Brazil	40 名
第 6 回 2000 年 10 月	アジア地域における HIV/AIDS の現状と対策 - 日本の国際協力のあり方	65 名
第 7 回 2000 年 11 月	パートナーシップを通じての沖縄感染症対策イニシアティブの実施 - Implementing the Okinawa Infectious Diseases Initiative through Partnerships	40 名
特別セミナー 2000 年 12 月	米国の国際感染症対策 - 沖縄国際感染症会議米国代表団を迎えて (MSH/HANDS/JICA セミナー)	40 名

今後も、「現場発」の最新情報と実際のプロジェクトの具体的な事例を基に、活発な情報・意見・アイデアの交換を通じて、日本の援助事業の質の向上に不可欠な人材の育成と、実践的・実用的な技術の向上に寄与することを目指して、より充実した内容のセミナーにしていきたいと考えます。



◆ テクニカルワークショップ

上記セミナーに加えて、日本の国際保健協力に従事する方々に関心の高いトピックを深く学ぶ機会として、「テクニカルワークショップ」を開催します。現場からの最新情報と実際のプロジェクトの具体的な事例を基に、講義やケーススタディを通じて国際保健協力、人口・リプロダクティブヘルスに関する問題をより深く掘り下げ学ぶ場を提供します。

その第1回として、2001年2月に「性感染症(STI)/HIV サービスのリプロダクティブヘルスへのインテグレーション：戦略とマネージメント」というテーマでワークショップを開催します。近年、STI/HIV は発展途上国の大きな公衆衛生上の問題となっています。また、1994年のICPD (国際人口開発会議)において、包括的なアプローチによるリプロダクティブヘルスが提唱され、STI/HIV サービスをリプロダクティブヘルスサービスへ統合する政策やプログラムが増えています。しかし、十分な分析や計画のないまま導入されたことにより、現場での混乱やサービスの質の低下が見られたこともあります。このような問題意識に立ち、このワークショップは参加者の以下の手法に対する理解を深めることを目指します。

- STI/HIV のリプロダクティブヘルスサービスへの統合に関する妥当性の検討とその評価技法
- 統合を円滑に計画・運営するための供給側のマネージメント機能の分析と強化

第1回ワークショップの経験をもとに、2001年には「プロジェクト形成の手法」や「リプロダクティブヘルスにおける技術発展の現状」など、ニーズの高いトピックに関するワークショップを開催する予定です。

◆ 第1回性感染症・エイズ・結核臨床検査技師研修(タイ)

2000年11月に、(社)日本臨床衛生検査技師会とHANDSの共催で、タイ国マヒドン大学公衆衛生学大学院にて、「第1回性感染症・エイズ・結核臨床検査技師研修」を実施しました。日本から参加した12名の臨床検査技師を対象に疫学の基礎、タイ国における性感染症、HIV/AIDS、結核の現状、及び研究手法についての研修を一週間にわたり実施しました。研修の成果として英文の研究プロポーザル(「HIV感染者間での結核発症の要因」と「針刺し事故発生の原因」)を作成し、また英語によるプレゼンテーションを行いました。

エイズや結核などの感染症は、まさに国境を越えた視野での対策と経験の共有が重要です。特に医療現場におけるエイズ対策に関しては、日本の医療従事者がタイ国などから学ぶ意味は大きく、この研修は参加者から非常に高い評価を得ました。また、マヒドン大学公衆衛生学大学院及び日本臨床衛生検査技師会も、このような新しいパートナーシップの形を発展的に継続することへ強い期待を表明し、本研修を今後5年にわたりHANDSと共同実施してゆくことで合意しました。

◆ 岩村国際保健フェロースhipプログラム

日本の国際保健分野の先駆者である岩村昇先生を記念して創設されたこのフェロースhipプログラムは、保健医療分野で活動している日本人がMSHのプロジェクトに実際に参加することにより、日本の国際保健医療を支える将来のリーダーとなる方々の、より幅広い知識と経験を養うことを目的としています。これまでにすでに4名のフェローがそれぞれ半年から1年の期間、フィリピンや南アフリカの現場で貴重な経験を積む機会を得ました。2000年よりHANDSはこのプログラムの日本事務局としてその運営に参加しています。2000年9月、公募により民間(特にNGO)で活躍する中堅レベルのフェロー2名を選考し、来年春からのプログラム開始に向けて、MSHのスタッフメンバーと研修計画の策定を進めています。

国際保健協力方法論の開発

◆ トヨタ財団「利用者の視点による母子手帳評価プロジェクト」

HANDSはトヨタ財団の研究助成金を受けて、母子手帳のリプロダクティブヘルス分野における実践的教材としての調査・研究を実施しています。日本で広く使用されている母子健康手帳は、女性と子供の健康増進をはかる実践的な健康教育教材として、世界に向けて発信できる可能性があります。日本に加えて、現在母子手帳を利用しているタイ、母子手帳プロジェクトが実施中であるインドネシア、メキシコなどを対象として、使用実態や利用者から見た母子健康手帳の評価などに関する詳細な調査を行っています。これらの調査の結果は、2001年にインドネシアで開催が予定されている「母子健康手帳国際シンポジウム」で発表されます。HANDSは、この研究を通じて各国の共同研究者・機関との協力関係を強化するとともに、母子健康手帳を手がかりとするリプロダクティブヘルス向上の実践的なツール開発を進めてゆきたいと思います。



国際保健協力方法論の実施

◆ ブラジルアマゾン地域コミュニティー環境・保健サービス向上プロジェクト

HANDSは国際保健協力を「健康と開発の調和」と捉えています。すなわち、HANDSの活動が単なる医療分野専門家による技術移転ではなく、対象となる地域住民の健康を増進するための包括的なアプローチを目指すことです。その具体的な実践として、ブラジル北部アマゾン地域での環境と保健に関するプロジェクトの計画を現在進めています。プロジェクト候補地域はアマゾン河の支流の川沿いに点在するコミュニティーです。これらの地域では、交通手段や医療サービスを含む社会インフラが整備されておらず、人々は基本的な保健サービスさえ受けられない状態です。



この地域の伐採権を所有するブラジルの木材会社は、苗の栽培から植林まで行う持続可能な森林開発を目指しており、ブラジル最大の環境NGOや MSH/Brazil、さらに HANDS の協力を得て地域住民を対象とする環境・保健プロジェクトの実施を提案しています。これを受けて、HANDS は現地を訪れプロジェクト実施可能性調査を行いました。現在、2001 年のプロジェクト開始を目指して、上記のパートナーと具体的なプロジェクト形成の検討を進めています。

◆ USAID Rational Pharmaceutical Management Plus (RPM Plus) プロジェクト

HANDS は MSH が米国開発庁(USAID)の委託を受けて実施する Rational Pharmaceutical Management Plus (RPM Plus) プロジェクトに参加しています。本プロジェクトの目的は保健医療サービスの質の向上に不可欠な医薬品や医療機材といった物資の管理や処方適正化することにあります。HANDS は日本を含む東南アジアにおける技術協力を担当し、2001 年には医療用物資管理に関するトレーニングコースや技術協力の実施を計画しています。

◆ JICA「ホンジュラス国第七保健地域リプロダクティブヘルスプロジェクト」短期専門家の派遣

リプロダクティブヘルスサービスの向上を上位目標とする本プロジェクトのなかで第七地域保健事務所における薬剤とその他の物品供給の改善が活動コンポーネントの一つとして位置付けられています。MSH より派遣された短期専門家が具体的なインターベンションの提案を行ったのを受け、本プロジェクトの医療用物資管理分野に対する技術的支援を HANDS が引き続き行うことが検討されています。





Health and Development Service (HANDS)

〒113-0033

東京都文京区本郷2 - 25 - 14 第一ライトビル302号室

TEL: 03-5805-8565 FAX: 03-5805-8667

E-mail: handsworld@gol.com

ホームページ: <http://www.handsworld.gr.jp/>